

イズハハコ *Conyza japonica* (Thunb.) Less.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 12。点在するが個体数の少ない暖地性の植物で、不安定な立地に生育しており、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

1～越年生草本。全体に灰白色の軟毛が多い。茎は高さ 25～55cm になる。茎の下部につく葉はややロゼット状に集まり、長楕円形で円頭、基部は有翼の葉柄となり、長さ 5～13cm、幅 1.2～4cm、中部の葉は互生し、倒披針状長楕円形で長さ 5～10cm、鈍頭で基部は茎を抱く。花期は 4～6 月、頭花は茎の先端に密集してつき、総苞は長さ約 5.5mm である。小花はすべて筒状花、花冠は細く、そう果は扁平、長さ約 1mm、冠毛は汚白色または赤褐色をおびる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (芹沢 87077, 2011-6-5)、2 豊根 (小林 42379, 1993-5-4)、3 東栄 (小林 61817, 1997-7-26)、8 鳳来北東部 (小林 59391, 1996-5-17)、10 鳳来北西部 (小林 56544, 1995-5-3)、12 新城 (小林 66697, 1993-7-12)、13 豊川 (小林 79153, 2003-6-1)、14 蒲郡 (小林 79169, 2003-6-1)。西：29 岡崎北部 (芹沢 65266, 1993-5-20)。ただし、このうちいくつかの区画では、すでに絶滅している可能性が高い。

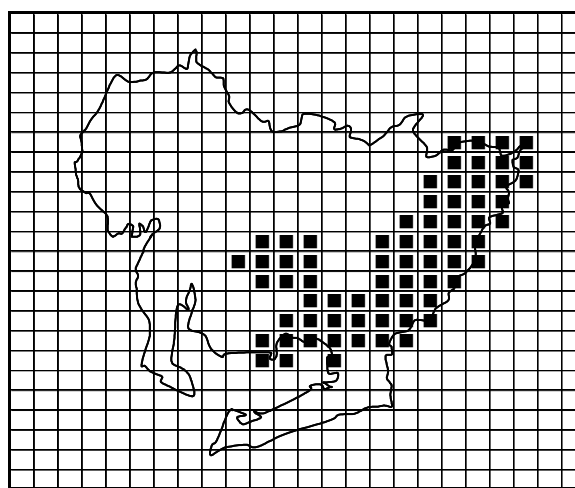
【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州、琉球に生育する。

【世界の分布】

日本からマレーシア、インド、アフガニスタンにかけて分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

林道わきの日あたりのよい崖地などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

東三河では点在しているが、どの場所でも個体数は少ない。林道わきなどに生育しているものは、道路の改修や拡幅により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

林道の拡幅に際しては、特に注意が必要である。東三河以外では岡崎北部の 1 カ所で確認されているだけで、生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

大抵はどうということのない場所に生育しているが、それでいてあまり見ることができない植物である。

【関連文献】

保草本 I p.77, 平草本III p.188, 平新版 5 p.323, 環境省 p.526, SOS 旧版 p.86, SOS 新版 p.55,57.